単元名　　かんじをつかおう～かんじはかせになろう～
研究主題　「確かな国語の能力を育むための国語教育の在り方」
－初めての漢字学習に興味・関心をもって取り組む児童を育てるための指導の工夫－

日立市立仲町小学校　益子　洋子

1　はじめに

学習指導要領の伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）ウ（イ）「第 1 学年においては，別表の学年別漢字配当表の第 1 学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと」を受け，第1学年では，「漢字に対する興味や関心，字形に関する意識を養いながら，漢字の字形と具体的な事物（実物や絵）とを結び付けるなどの指導を工夫し，漢字が表意文字であることを意識しながら，漢字に対する興味や関心を高められるようにする」とある。

児童は，小学校に入学してから日常生活や様々な学習を通して，振り仮名付きで出ている漢字を読んだり，漢字交じりの表記を目にしてきたりしていて漢字への関心は高い。そこで，初めての漢字学習となる本単元において，児童が興味・関心をもって楽しみながら漢字の読みや字形，筆順を学習し，漢字を正しく読んだり，書いたりする力を身に付けさせたいと考え，本主題を設定した。

2　研究の仮説

（1）単元の導入では，王様からの手紙を提示し，「王様の暗号文を漢字を使った文に書き直そう」とゴールを明確にすれば，漢字学習に興味・関心をもって取り組むことができるであろう。
（2）漢字の筆順を一画一画色分けしたり，映像で見せるなど視覚に訴えたり，また動作化を取り入れることで，漢字の筆順や字形が正しく身に付くであろう。
（3）「漢字へんしんボックス」を用いて漢字の字形と具体的な事物（実物や絵）とを結び付ける指導の工夫をすることで，漢字の成り立ちにも興味をもち，漢字に対する興味や関心を高められるであろう。

3　実践事例

（1）学習指導案

1　単元名　　かんじをつかおう～かんじはかせになろう～
　教材名　　（東京書籍　1年上「かんじの　はなし」
2　単元の目標
○ 漢字の成り立ちに興味をもち，漢字を使おうとする。　　（国語への関心・意欲・態度）
○ 語と語の続き方に注意して，漢字を使ってつながりのある文を書くことができる。　　（書くこと）
○ 漢字の読み方と書き方を知り，正しく使うことができる。
　　（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
3　単元について

（1）児童観

児童は入学してからこれまでに平仮名の学習をし，1学期末の読みのテストでは，全員が正しく平仮名を読むことができた。一文字ずつ書くテストも，ほぼ全員が平仮名を書くことができた。しかし，長音や拗音，促音については，絵日記を書いたり，日常生活で文を書いたりする中では書き誤りが見られ，十分身に付いたとは言えず，その都度補充指導している。

意識調査では，「漢字を読めるようになりたい」「書けるようになりたい」と，漢字の学習を心待ちにしている様子がうかがえる。日常生活の様々な場面で漢字交じりの表記を目にしたり，絵本の中にふりがな付きで出ている漢字を読んだりしており，漢字への抵抗は少ない。

【意識調査】　　（平成 30 年 7 月 19 日　第 1 学年　18 名実施）

項目	選択肢と人数		
1　漢字の学習を楽しみであるか。	楽しみ　16 名	普通　2 名	楽しみでない　0 名
2　漢字が書けるか。	書ける　13 名	書けない　5 名	

（2）教材観

初めての漢字学習となる本単元では，伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）ウ（イ）「第 1 学年においては，別表の学年別漢字配当表の第 1 学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと」を受けて，「簡単な象形文字や指事文字を読んだり書いたりする」こ

とを言語活動として位置付けた。この言語活動では，児童にとって身近な漢字を取り上げ，その成り立ちを読み取ったり考えたりすることで，本格的な漢字学習の導入ができると考えられる。

（3）指導観

本単元では，初めて漢字の読み方や字形，筆順を指導するので，児童が正しく読んだり書いたりできるように丁寧に指導する。漢字の学習を楽しみながらもしっかり身に付けさせるために，筆順を一画一画色分けし，映像で見せるなど視覚に訴えたり，動作化を取り入れたりする。また，漢字は表意文字であることを理解させ，「漢字へんしんボックス」を用いて漢字の成り立ちにも興味をもたせ，進んで漢字を使おうとする態度を育てる。

このようなことから，単元の導入では，王様からの手紙を提示し，「王様の暗号文を漢字を使った文に書き直そう」とゴールを明確にして，漢字学習に興味・関心をもたせるようにする。

4　単元の評価規準

国語への関心･意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・漢字の成り立ちに興味を持ち，漢字を使おうとしている。	・漢字の意味を理解して，語と語のつながりの合う文を書いている。	・漢字の読み方と書き方を知り，正しく使っている。

5　単元の指導計画（５時間扱い）〇は本時

時	主な学習活動	主な評価（観点）【評価方法】
1	「おうさまからのてがみ」を提示し，学習計画を立てる。	・漢字に興味をもって，王様のからの手紙にこたえるために，意欲的に漢字学習に取り組んでいこうとしている。 (関･意･態) 【観察・カード】
②	・象形文字「山」「木」の成り立ちを理解する。 ・字形や筆順に気を付けて，漢字を練習する。	・漢字の成り立ちから意味と読みを理解して，正しく書いている。 (言) 【観察・発表・ワークシート】
3	・象形文字「川」「口」「目」の成り立ちを理解する。 ・字形や筆順に気を付けて，漢字を練習する。	・漢字の成り立ちから意味と読みを理解して，正しく書いている。 (言) 【観察・ワークシート】
4	・指事文字「上」「下」の成り立ちを理解する。 ・字形や筆順に気を付けて，漢字を練習する。	・漢字の成り立ちから意味と読みを理解して，正しく書いている。 (言) 【観察・ワークシート】
5	・「おうさまからのてがみ」にへんじを書く。 ・習った漢字を使って文を作る。	・進んで漢字を使おうとしている。 (関･意･態) 【観察】 ・漢字の意味を理解して，語と語のつながりのある文を書いている。 (書) 【ワークシート】

6　本時の指導

(1) 目標

・象形文字「山」「木」の成り立ちを理解し，正しく読んだり書いたりすることができる。

(2) 準備・資料

・学習計画表（ふり返りカード）　・漢字，絵カード（掲示用）・漢字変身ボックス
・パソコン　・プロジェクター　・スクリーン　・ワークシート

(3) 展　開　　〇個に応じた支援　（評）評価

学習内容・活動	指導上の留意点と評価
1　本時の学習課題をつかみ，見通しをもつ。 からできたかんじをよんだり，かいたりしよう。	・学習計画表から前時の学習を想起し，王様からの暗号文を解読するために，本時は，象形文字の「山」と「木」を学習することを押さえ，学習への興味をもたせる。
・漢字の成り立ちを知る。 ・漢字を読む。書く。	・学習の流れを示し，見通しをもって本時の学習に意欲的に取り組めるようにする。 〇全体での指示が通りにくい児童には，個別に指示する。
2　「山」「木」の成り立ちを理解する。 （1）教科書９６ページを読む。 （2）「□というかんじは，□からできました。」の文型に当てはめる。 （3）絵とつないで確かめる。	・まずは，教科書を読み，漢字の成り立ちを文章から読み取り，具体物の形からできたことをとらえさせる。 ・分かりやすく漢字の成り立ちを確かめるために，「漢字変身ボックス」で絵や漢字カードを用いる。
3　字形や筆順に気を付けて，２つの漢字を正	・漢字の筆順を映像で見せることで，書くことへの意欲を高め，集中して取り組めるようにする。 ・一画ずつ空書きをさせたり，漢字体操（体全体を上下

しく書く。 （１）筆順を知る。 ・映像を見て ・空書き（漢字体操） （２）漢字を正しく書く。	左右に動かす）をさせながら書かせたりする。 ・具体物から文字になっていく過程を意識させながらワークシートに「山」「木」の漢字を正しく書かせる。 ○姿勢や鉛筆の持ち方についても適宜指導・助言する。 ・筆順や画数だけでなく，画の長さや交わり方などの字形や運筆の方向についても気を付けて書くよう丁寧に指導する。 (評)漢字の成り立ちから意味と読みを理解して，正しく書いている。　（観察・発表・ワークシート） 【目標が達成できない児童に対する手立て】 漢字を書いている状況をよく見て，できたところまでは褒め，筆順や字形など個別に指導する。
４　本時の学習をまとめる。 「山（やま）」や「木（き）」は，かたちからできたかんじである。	○ワークシートが早く終わった児童には，漢字練習プリントを用意しておき，取り組ませる。 ・「山」「木」の漢字と読みを書き，象形文字であることをまとめる。
５　本時の学習を振り返り，次時の学習内容を知る。	・学習計画表の前で振り返りを行うことで，単元全体に対する意識を高める。 ・「山」「木」以外にも象形文字はないのかを問い，カードを見せるなどして次時への学習への興味・関心を高める。

（２）指導の実際

①漢字学習への興味・関心を高める工夫

ア　単元の導入では，学級にとある王様から手紙が来たことを知らせ，王様のために学級のみんなが暗号文（絵文字入りの文）を漢字を使った文に書き直してあげるために学習していくという設定をした。学習のゴールを明確にし，学習計画表も掲示して学習の流れをつかめるようにした。（資料 1）

イ　「漢字へんしんボックス」を用いて漢字の字形と具体的な事物（実物や絵）とを結び付ける指導の工夫を行い，漢字の成り立ちに興味をもたせた。（資料 2）

ウ　単元の終末では，王様の手紙に対する返事を書くことで児童の学習に対する振り返りをさせるとともに，今後の漢字学習への意欲付けを行った。（資料 3）

②漢字の筆順や字形の学習の工夫

ア　漢字の筆順については，視聴覚機器を用いて映像で見せることで学習を進めた。映像を見せながら漢字を空書きさせることで，児童の学びの様子をすぐにみとることができた。（資料 4）

イ　漢字の空書きは，動作化を取り入れ，指で行うだけでなく体全体を用いて楽しみながら取り組めるようにした。（資料 5）

ウ　映像や動作化して学習した漢字の筆順や字形をいつでも確認できるように，漢字の筆順を一画一画色分けした漢字カードを掲示しておき，いつでも確かめられるようにした。漢字の成り立ちが分かるワークシートを全員がすぐに終え，漢字練習プリントに意欲的に取り組んだ。（資料６）

４　研究の結果

（１）仮説１について

単元の導入では，王様からの手紙を提示し，「王様の暗号文を漢字を使った文に書き直そう」とゴールを明確にしたことで，児童は大いに漢字学習に興味・関心をもって取り組むことができた。「どこの王様からなの～？」と興味津々で，学習計画表を掲示したところ「やってやるぞ～！」「もう知っているから簡単だ！」という声が上がった。

（２）仮説２について

漢字の筆順を一画一画色分けしたり，映像で見せるなど視覚に訴えたり，また動作化を取り入れることで，児童は意欲的に漢字の筆順や字形の学習に取り組むことができた。

（３）仮説３について

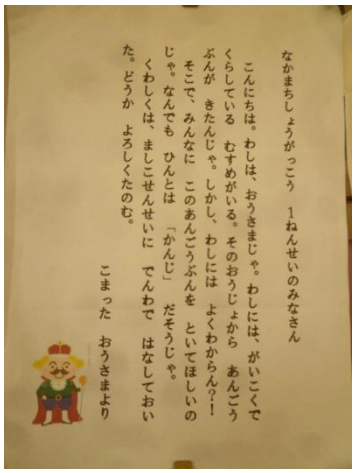
「漢字へんしんボックス」を用いて漢字の字形と具体的な事物（実物や絵）とを結び付ける指導の工夫をしたことで，漢字の成り立ちにも興味をもち，「習った漢字以外にも象形文字があるのかな～？」と漢字への関心を高められた。

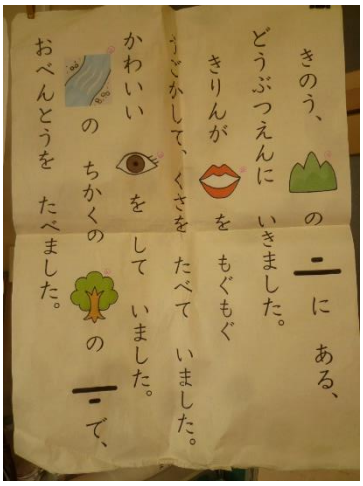
５　今後の課題

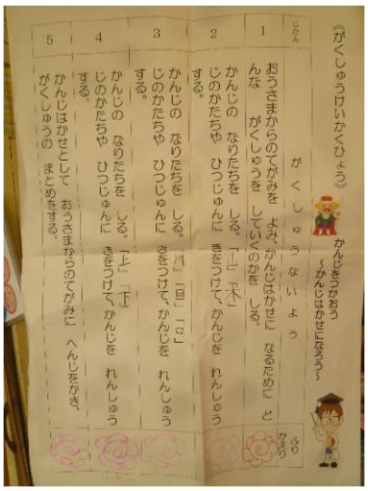
初めての漢字学習に対して興味や関心をもって学習に取り組むことができ，実際，ワークシートやノートに漢字を練習する場面でも，集中して丁寧に漢字を書いていた。また，漢字の筆順は全員が正しく書くことができた。これから始まる本格的な漢字学習の導入をすることができたが，手本のような漢字の字形で書けない児童が３名いた。今後も，繰り返し練習に励ませ，上手に書くことができたところを誉め，しっかり習得できるようにしていきたい。

参考文献：「小学校学指導要領解説　国語編」　　文部科学省　平成２０年８月，平成２９年７月

資料１：王様からの手紙と学習計画表

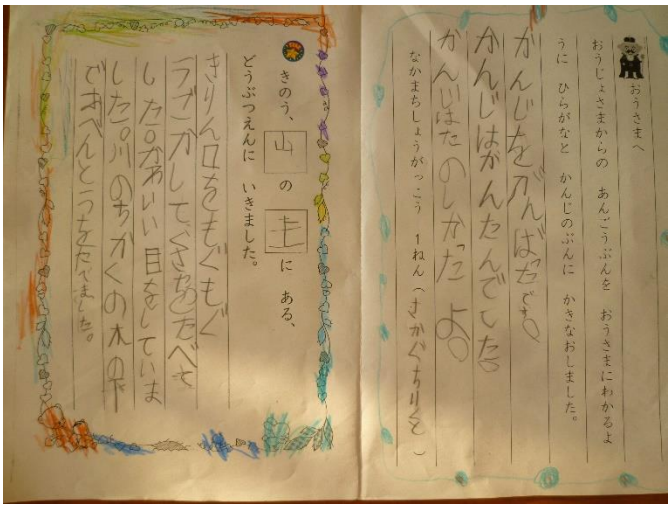


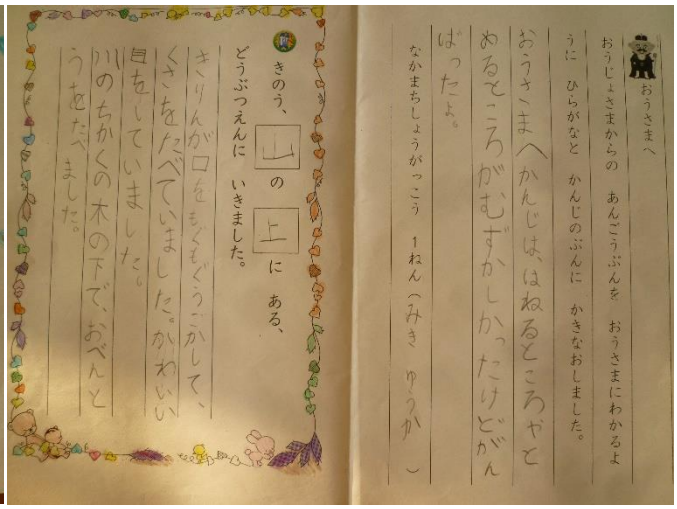




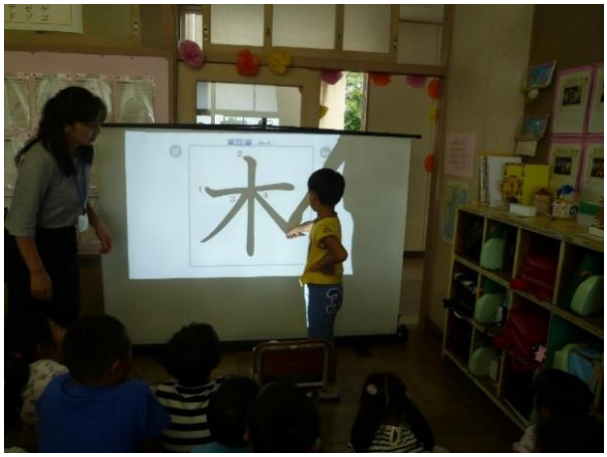
資料２：かんじへんしんボックス

資料３：振り返りのワークシート（王様への返事）





資料４：視聴覚機器を用いての指導



資料５：漢字の空書きの動作化

資料６：漢字練習プリントへの取り組み